

## 国際社会で発信する能力の育成 (2)

—効果的な教材開発を目指して—

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

八宮 孝夫・加藤 裕司・多尾奈央子

寺田 恵一・平原 麻子・山田 忠弘

## 国際社会で発信する能力の育成 (2)

—効果的な教材開発を目指して—

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

八宮 孝夫・加藤 裕司・多尾奈央子  
寺田 恵一・平原 麻子・山田 忠弘

### 要約

昨年度からの研究テーマ「国際社会で発信する能力の育成」への2年目の取り組みの概要を振り返る。

昨今、社会人だけでなく、高校生対象の国際〇〇オリンピックのように、学生にも英語でのプレゼンテーション能力が求められるようになってきている。本稿では各学年の取り組みを紹介する。

キーワード：科学的、発信、カリキュラム、教材

### 1 はじめに

#### 1.1 研究テーマ

本校は、昨年度より新SSH研究校に指定され、学校全体として以下の目標を掲げて研究活動を進めている。

- (i)サイエンス・コミュニケーション能力を育成する少人数学習の研究と実践。
- (ii)国際科学五輪など、世界を視野に入れた生徒の自主的研究・交流活動の支援。
- (iii)科学者・技術者に必要な幅広い科学的リテラシーを育てるプログラムの実施。
- (iv)先端技術・研究の成果を活かした授業の普及と次世代SSH教員の養成。
- (v)中高一貫SSHの完成に向け、中学に重点を置いたカリキュラム・教材の開発。

以上の学校全体目標の達成に寄与するため、英語科では2007年度からの5年計画において次の目標を立てた。

- ① 科学的内容の教材開発とカリキュラム研究
- ② 生徒各人が口頭発表する能力と科学的リテラシーの育成

#### 1.2 学校目標達成のための取り組み

5つの学校目標のうち、英語科としては(iv)を除いた4点に関わることができる。具体的には以下のよ

うな取り組みを行っている。

- 1) (i)「サイエンス・コミュニケーション能力を育成する少人数学習の研究と実践」と関連して、科学的教材や論文などを活用し生徒のプレゼンテーション能力の育成をはかる。これについては、後の「2. 具体的な取り組み」の中で実践例を挙げる。
- 2) (ii)「国際科学五輪など、世界を視野に入れた生徒の自主的研究・交流活動の支援」に関しては、各種イベント(例：立命館高等学校での International Students Science Fair)に参加し、英語で発表を行う生徒をサポートする。
- 3) (iii)「科学者・技術者に必要な幅広い科学的リテラシーを育てるプログラムの実施」の一貫として、講演会やワークショップを実施する。

今年度は東京農工大学の畠山雄二先生による講演会「英文法、日本語文法、そして脳内文法」を開催し、ヒトの脳の中にある、言語を生み出し、理解するのに必要な「文法」のメカニズムとはどのようなものか、というテーマで講演をしていただいた。脳科学だけではなく、言語学、哲学など文系的な要素も含んでおり、文系理系両方の生徒にとって「科学的な視点」を養う良い機会となった。

- 4) (v)「中高一貫SSHの完成に向け中学に重点を置いたカリキュラム・教材の開発」を視野に入れ、英語科で従来進めてきた中高一貫の6カ年のシラバスを発展させる。

### 1.3 授業構成とシラバス

本校の英語の授業時数は以下のとおりである。

- 中1 「英語」 4時間 (LL・TT 各1時間を含む)
- 中2 「英語」 4時間 (LL・TT 各1時間を含む)
- 中3 「英語」 4時間 (LL・TT 各1時間を含む)
- 高1 「英語 I」 3時間 + 「OCI」 2時間
- 高2 「英語 II」 4時間 (TT 1時間を含む)
- 高3 「リーディング」 3時間  
「ライティング」 2時間

このうち、高3のみが選択授業である。

本校は中学各学年3クラス、高校各学年4クラスと小規模校であるため、各担当者が学年の全クラスを受け持つ。そのため統一テストでの調整に悩む必要がなく、それぞれの担当者の持ち味で、授業を進めていくことができる。ただし、個々の教員の方向性がバラバラにならないよう、共通理解＝ガイドラインが必要となる。過去のプロジェクト研究で、そのためのシラバスを構築してきた。口頭発表に深くかかわるスピーキング指導のシラバス例を次に示す。

<基礎期：中学1・2年>

- ・個々の発音・連音・リズム・イントネーション(基本)
- ・つづりと発音の関係 (フォニックス)
- ・絵や物をヒントにした oral reproduction (show & tell, story telling, etc.)
- ・身近な事柄を英語で説明 (自己紹介など)

<実践期：中学3年・高校1年>

- ・リズム・イントネーションの効果的な使い方 (応用)
- ・さまざまな形式による口頭発表 (recitation, speech, skit, etc.)
- ・より内容のある事柄を英語で伝える (体験談、興味のあることの説明等)

<発展期：高2・3年>

- ・より高度な内容を英語で伝える
  - ・自分の考えを相手に正確に伝える
  - ・意見交換を行う (discussion, debate)
- (『筑波大学附属駒場論集』第45集(2005))

相当に大まかなシラバスであることは否めない。しかし、英語科の場合、教科書が変われば、扱う内容にも変化があったり、導入する文法項目にも多少移動が

あったりする。このことを考えると、大まかなガイドラインを共通理解にしていることがむしろ重要である、と言えるのではないだろうか。

いずれにしても、新指導要領への移行も間近である。SSH 関連の研究成果とあわせて、いずれはシラバスの見直しを検討しなければならない日がくるだろう。

## 2 今年度の具体的な取り組み

### 2.1 中学1年生(62期) 担当：山田忠弘

中学1年生はTTの授業ではほぼ毎回、全員がクラスで何かしらの英語を話す機会を設けている。以下は生徒がクラスの前で行った会話練習(pair work)の例である。

A: Do you have a textbook in your bag?

↓

B: Yes, I do.

↓

A: What else do you have in it?

↓

B: I have a dictionary too.

↓

B: No, I don't.

↓

↓

A: Then what do you have in it?

↓

B: I have a notebook.

人に聞かせるプレゼンテーションの練習として、まず大きな声で、はっきりと、わかりやすく言うように注意している。同時に聞く方もきちんとした態度で聞くように指導している。

生徒は名詞部分は自由に入れ換えて文を作るので、細かい部分に関しては(不加算名詞に some をつけたり、靴などに a pair of をつけたりなど)各ペア終了後に、外国人教員が全体に対して補足をする場合もある。

教科書を使った授業では、学期に1度ずつ短い原稿を作ってスピーチをさせた。1学期は、教科書の例に倣って簡単な自己紹介をさせた。

Hello, everyone. My name is Kawabe Makoto. I like soccer. It is fun. This is my soccer ball. I use it every Sunday. Thank you. (NEW CROWN, p.32)

この文章を自分の例に置き換えた原稿を書かせ、期末試験ではそれにさらに「私は～に住んでいる」などの情報も加えさせて書かせた。

2学期は、3つの学校行事 (Sports Festival / Rice Harvest / School Festival) のうち1つを選ばせ、それについて原稿を書かせてからスピーチをさせた。

生徒には、先の pair work と同様に、聞く人が聞き取りやすいように配慮した声の大きさ、スピードを重

視させるとともに、長い単語（辞書などを用いて原稿を作るので、やや難しい単語を使うことも多かった）の場合は、まずは正しいアクセント位置で読むよう注意した。

## 2.2 中学2年生（61期） 担当：多尾奈央子

本学年は、筆者が教科書（2単位）+TT（1単位）を担当し、LL（1単位）を別の教員が担当している。

各課で取り扱われる文法事項をまずはTTで学習し、その後発展的な語彙や表現を多少加えて教科書の内容に入るという流れで授業を行っている。本校のスピーキングのシラバスに記載されているように、基礎期2年目として、次の実践期への発展が円滑に進むように音声面（個々の発音・リズム・イントネーション）に特に留意した。ごく単純な発表表現を確実に体得するように反復練習（pattern practice）をさせた。同じ表現形式で反復練習するのは飽きがちだが、言語活動毎に必ず生徒たちのオリジナリティに富んだスキットの発表活動を入れた。生徒は、練習で使用したスキットにさらに文章を加えたり、独自の状況を設定したりと工夫し、競って聞き手の関心を得ようと努めていた。生徒の人前で話すことへの抵抗感はもともと薄いのだが、恥じらいが出る時期か、顔が下がる生徒が多少おり、パブリックスピーキングに不可欠な“eye-contact”，“loud voice”を全員に指導徹底することは困難だった。

教科書は三省堂のNew Crown English Series 2を使用しているが、科学的単位としては、Lesson 7の‘How Can We Find Out’—『ヒートアイランド現象』の課題研究およびその発表のみである。ここでは数種類の図（折線グラフ・等温線地図等）が掲載されているが、その図や表が示す内容を発表する場面を想定して、発表語彙や基本表現を紹介した。また、教科書で取り上げられたヒートアイランド現象対策は屋上緑地のみであったが、ある論文（米国生物科学学会）の一部（以下）を抜粋したものを読ませた。

### ★How do heat islands impact cities?

Heat islands have a range of impacts for city dwellers, including

- human comfort: positive (winter), negative (summer)
- energy use: positive (winter), negative (summer)
- air pollution: negative
- water use: negative

- biological activity (e.g., growing season length): positive
- ice and snow: positive

Heat islands may impact human health. Summer heat islands can increase the demand for energy for air conditioning, which releases more heat into the air as well as greenhouse gas emissions, degrading local air quality. Higher urban temperatures in the daytime may increase the formation of urban smog, because both emissions of precursor pollutants and the atmospheric photochemical reaction rates increase. Heat islands may also directly impact human health by exacerbating heat stress during heat waves, especially in temperate areas, and by providing conditions suitable for the spread of vector-borne diseases.

（出典）“Urban Heat Islands: Hotter Cities” James A. Voogt (An education resource of the American Institute of Biological Sciences : <http://www.actionbioscience.org/>)

Lesson 8の‘Landmines and Children’では、地雷は過去のものではなく現在も解決されていない現実であることを認識させること、本文には出てこないが地雷撲滅の鍵となる『地雷除去機』を別個に取り上げ、世界で1億万個と言われる地雷を早急に除去、処理するには科学技術の発展が必至であることを考えることで科学的な側面を加えることとして学習を進めた。

3学期は、直接的に科学的内容を取り扱うのではなく、「すべてのことが果たして科学的に証明されるものか？」や「証明されないままに残されているものは『呪い』などと結論づけられてしまうが、そのような超自然的と思われる出来事は実在するか？」などの疑問を持って「科学」を考えることを目標に‘The Curse of the Mummy’を読む予定である。

## 2.3 中学3年生（60期） 担当：平原麻子

### 2.3.1 中学3年生の目標

本校の生徒は概して目と手で行う学習スタイルを好み、またそれが得意である。しかし、技能教科である英語学習では「知識」「理解」に偏ることなく、それを「発信する」技術を身につけることが求められている。すなわち耳・口・表情も使えるようになる必要がある。

というわけで今年度の中学3年生の年間到達目標は**To make yourself understood in English.**と設定して

ある。

### 2.3.2 普通の授業での取り組み

この目標を達成するために普通の授業で心がけているのは次のような点である。

- ① 教師はできるだけ英語を使って授業をすすめる。
- ② 音読練習を徹底する。すなわち、理解したことを聞き手に通じる音声で表現する。
  - 1) repeating → overlapping → read and look up の手順を踏み意味と音声を内在化する。
  - 2) 教科書の内容を使い、学期末に shadowing test を実施する。このため各生徒には教科書付随の CD をもたせ、家庭での練習を奨励している。
  - ③ 英作文練習のときにはすぐに鉛筆を持って書かず、まず口で言い、言えたら書く。
  - ④ 月に一度英語学習者向け英字新聞 (“Catch the Wave”浜島書店) を購読し、話題を豊富にするとともに語彙力をつける。

### 2.3.3 TT 授業での取り組み

2.3.2 のような日頃の基礎練習の上に、週一回の TT 授業では実際に英語を聴いたり話したりしてコミュニケーション能力を高める活動を行っている。以下に各学期のメインとなる取り組みについて簡単に述べる。

#### 2.3.3.1 1学期：スピーチ発表

Topic : The Place I Want to Visit /

The Place I Recommend You to Visit

各自上記トピックでスピーチしたあと、その内容について ALT からの質問に即興で答える。スピーチ+Q & A で各自の持ち時間は2分間

気をつけさせた点

- 1) Speak clearly. Don't mumble.
- 2) Eye contact
- 3) <内容について> Give an outline.  
Lot of examples.

#### 2.3.3.2 2学期：ディベート

この指導には1ヶ月以上かけて取り組んだ。以下に指導手順を示す。

[第1時間目] 意見を言う練習 (discussion)

“In my opinion”, “I agree with you”, “I can't support you”, “I understand what you mean.” “I see your point, but...” など意見交換に使う表現を学び、ペアで英語による話し合いをする。この段階では自分の

意見を自由に言ってよい。

Topic は “Which is better, futon or a bed?” および “Which is better as a pet, a cat or a dog?”

[第2時間目] 指定された立場で意見を考え、それを言う練習 (debate の第1歩)

“Co-ed schools are better than single-sex schools.” をトピックとし、列毎に affirmative side と negative side を決めてペアによるディベート練習を行う。

男子校であるため、けっこう盛り上がる。

[第3時間目] ディベートのやり方を学び、チームで準備をする。

まず、ディベートをやることにより①critical thinking ができるようになる、②相手を説得する技術が身につく、などディベートを練習する意義について ALT より学ぶ。次に1チーム3人で行うディベートの正式なやり方を学び、チームと論題・立場をクジで決める。そのあとチームごとに作戦会議。

論題は以下の7つである。

- (1) School uniforms are necessary.
- (2) The school year should start in September.
- (3) Electric games should be prohibited in school.
- (4) Sports heroes should be role models.
- (5) The right to vote should be given at the age of 18.
- (6) English classes should start early in elementary school.
- (7) The 2016 Olympic Games should be held in Tokyo.

[第4・5時間目] ディベート実践

評価はチームごとに行う。ディベートのポイントとして生徒に指導したのは以下の4点である。

- 1) Clear idea. Don't use complicated words and sentences.
- 2) Logical organization as a team.
- 3) Real reasons. “Ramen is delicious.” is not a reason.
- 4) Speaking style. (スピーチでの注意と同じ)

ディベートをやった結果、生徒はかなりの達成感を持つことができた。普段は発表活動に消極的な生徒もチームとして活動したため、懸命に参加していた。また聴衆には評価シートを与え、どちらが勝ったかを具体的な理由とともに書かせて提出させた。的確な批評をしている者が多く、critical thinking を鍛える一助になったと思われる。

また、3学期には skit making and presentation を

予定している。(原稿執筆段階では未了)

## 2.4. 高校1年生(59期) 担当: 八宮孝夫

### 2.4.1 はじめに

高校1年生は英語Iの授業が3時間、オーラル・コミュニケーションの授業が2時間である。オーラル・コミュニケーションは2名の教師で担当しており、1時間はLLでリスニング中心の授業、もう1時間はALTとのティーム・ティーチングである。ティームティーチングの担当者が発表活動も含め科学的題材を中心に進めているため、筆者の担当の英語Iでは、かならずしも科学的題材にこだわらず、広い意味での読解力・発表力をつけることを目標としている。

### 2.4.2 1学期の取り組み

教科書 *Unicorn English Course I* では Severn Cullis-Suzuki という少女の "You can change the world" という環境問題をテーマにした題材で始まっている。これも悪くないのであるが、高校の入門期には3年間の英語学習を踏まえて、新たに英語を捉えなおしてはどうか、という思いがあった。そして、以下のような教材を扱うことにした。

#### 2.4.2.1 「英語の歴史」

高1の英語は、中学で学んだ上に新たなスタートを切る、という意味で「これまで学んできた英語は、そもそもどんな歴史的背景があるのか」という原点に立って、「英語の歴史」を扱った。高校では、さまざまな語彙を導入することになり、その際、語源などについても触れることになるが、英語がどのような歴史で成り立ってきたのかを概略的にでも知ることは、英語の語彙構造を知る点でも有意義なことであると思われる。旧版の中3の教科書 *The Crown English Series 3* の *The Story of English* をベースに、筆者が肉付けした教材で、中学と高校英語の橋渡しにもなる、という利点もある。

#### 2.4.2.2 「ベオウルフ」

英語の歴史を扱った際に、その最も古い形で書かれた作品に「ベオウルフ」があることに触れた。*Beowulf* (Blackcat) は平易な語彙・文体で書かれている一方で、「ベオウルフ」の持つキリスト教以前の価値観と、キリスト教以後の価値観の両面が見られる作品であることにも言及しており、また、CDによる朗読もついている点で、非常に優れたリトールド版であ

る。Exercises も含めると100ページ近くあるため、全てを扱うことはできないので、ベオウルフが怪物グレンデルを退治する場面とグレンデルの母親が復讐しに来る場面を中心に扱った。最低限の語注をつけ、CDでパートごとに聞かせながら、話のポイントとなる点を questions and answers の形式で進めた。話が面白いため、結局、ベオウルフがグレンデルの母親退治をするところまで最終的には読み進めた。

「ベオウルフ」の後半は王となったベオウルフが50年後、竜との壮絶な戦いの後、死にいたる話であるが、「最後には竜との戦いがある」ことを生徒にほめかすと、結末が読みたいという要望も出て、授業では扱わなかったが、プリントを配付し、個々に読む自由課題とした。後に生徒に書かせた感想の中には「中学では、こんな長い話を読んだことがなかったが、意外とすらすら読めて楽しかった」というものはいくつかあった。とりわけ、高校からの入学生にその感想が多かった(中学から本校で学んできた生徒には、夏休みの課題として *Tom Sawyer* (Macmillan) や *Romeo and Juliet* (開隆堂出版) を読んだ経験があり、必ずしも長い話も初体験ではなかった)。

結局、「読み物」の良さは、始めに人物と状況設定をていねいに扱えば、後は話の面白さにひかれて、どんどん読み進める点にある。最近の教科書には、ギリシャ神話など古典的な「読み物」がほとんどないのは残念である。

#### 2.4.2.3 ボブ・グリーンのエッセイ

ボブ・グリーンのエッセイ集 *Bob Greene's Eye for America* (南雲堂) は、過去2回高校1年を担当した際に扱ってきた。結末が比較的是っきりしている「読み物」と違って、エッセイは書き手の意図が行間に込められており、結末も(読み手にあれこれ考えさせる点で)余韻の残る終わり方であることが多い。

具体的には "The Railroad Man" という題材で、食堂車での給仕をしていた黒人が、鉄道華やかなりし頃、豪華高速鉄道のバーテンダーとなり人生の頂点に立つも、鉄道の衰退につれて職場も変わり、ベテランとなりながら、一般の鉄道員にあるような退職の際の感謝会もないまま、最後の日の仕事を終えて、一杯バーで飲んで去る、という話。黒人は、差別を受けて、結末も悲哀に満ちてかわいそうだという意見と、感謝の金時計こそないが、生涯鉄道のバーテンとして働いてきた誇りを胸に、静かに去る姿がかっこいいという意見とに大きく分かれる。

行間、とは言っても、そこには自ずから注目すべきキーワード、言葉使いがあるわけで、そのようなことを考えて読ませるにも適した題材である。単に筋だけ追っていけばいい中学英語とは違うぞ、ということを知らしめる点で、本格的な英語への入門、という意図がある。

#### 2.4.2.4 1学期末の発表課題

中学時代から、学期末には「パフォーマンス・テスト」と称して、発表課題を設けている。今回は、1学期に扱った題材（英語史、「ベーオウルフ」、The Railroad Man）に何らかの関連をさせて、2分程度の発表をする、ということにした。例えば、言葉の歴史に絡めてある単語の由来を紹介する、とか「ベーオウルフ」の自由課題にした部分の要約を発表する、とか、アメリカや日本の鉄道について、うんちくを披露する、ということである。

発表は、期末考査後の特別時間割の時間に2時間設定した。実際に生徒の発表したテーマを以下にいくつかあげる：

- 1) 「英語の歴史」関連
  - ・ About Latin language
  - ・ Word origin of “escape”
  - ・ Word origin of “eleven” and “twelve”
  - ・ Word origin of “breakfast”
  - ・ Word origin of “Hotchkiss”
  - ・ Japanese words used in English
- 2) 「ベーオウルフ」など英雄もの関連
  - ・ Summary of Beowulf (Chapter7-10)
  - ・ About the film version of Beowulf
  - ・ Story of King Arthur
  - ・ Japanese hero: Momotaro, Kintaro, etc.
  - ・ Epic of Gilgamesh
  - ・ Trojan War
  - ・ Perseus and Medusa
- 3) The Railroad Man 関連
  - ・ Impression of the Railroad Man
  - ・ Poppo-ya
  - ・ About long-distance train
  - ・ Dining cars in Japan
  - ・ About Orient Express
  - ・ About Blue Train

なお、補足資料として Summary of Beowulf と Dining Cars in Japan の例をあげる（別紙資料1）。

これを見ると、やはり学習した内容に関連したことを述べることによって、学習した語彙・表現や文法項目を使う機会にもなっており、直接学習した教材を oral reproducing するのではないまでも、こうした課題を設けることは意味のあることだと考える。

#### 2.4.2.5 2学期の取り組み

以下に、2学期の教材を概略し、実践した発表活動について述べる。

夏課題に邦題『スタンド・バイ・ミー』でおなじみのスティーブン・キング作 *The Body*(Retold 版・Penguin Books)を出したので、2学期初めにビデオ視聴をし、原作との比較をした。この作品も、原作と映画版では重要な点で異なっているので比較し意見を言わせるのは面白い。また、2学期は発表活動に力を入れようと思い、ビデオ視聴の後の時間に、話の流れについて絵を用いながら Questions and Answers をし、また Reproducing も行った。ただし、絵をキーにして英語で再現させようとしても、必ずしも得た絵を描くのは難しく、必ずしもうまく行かなかった。

1学期に科学的題材を扱わなかったのも、次に Are We Alone in the Universe? (*Unicorn English Course* L.8)を採用した。これは、宇宙に高い知能を持った生物が存在するかをテーマにした教材である。教科書本文では編集の都合もあり最新の内容はどうしても載りにくい、この課は SETI (=Search for Extraterrestrial Intelligence)のホーム・ページもあり、単に教科書の話ではなく、現在でも進行しているプロジェクトであることがわかり、実際最新映像をダウンロードして、まとめとした。

3つ目に扱ったのは、*The Glory that was Greece* (J.カーカップ著：成美堂)中の、Medusa, Perseus and Andromeda の2編である。1学期と同様、物語に戻った形だが、その前の話題でアンドロメダ星雲が出てきた関係で、もともとアンドロメダとはどこから来たかと関連させて扱うことにした。

2学期最後は、米国の大統領選も行われた年なので、Thomas Jefferson (『アメリカを築いた人々』 *People Who Made Our Country Great*: 北星堂) を扱った。これは、ジェファソンが独立前言を書くにいたった話であり、最終的には独立宣言の一部も学習した(教育研究会の公開授業で紹介)。

#### 2.4.2.6 2学期の発表活動

発表活動としては、この独立宣言の一部の暗誦・レシテーションを行った。(暗誦プリントは別紙資料2を参照)

以下は、その指示：

☆パフォーマンス・テストについて

今回は水曜に指定した Declaration of Independence の暗誦、発表。

- a)視線が聴衆を向いているか。
- b)後ろまで届く充分クリアな発音・発声をしているか。
- c)ただ、丸暗記ではなく、意味内容を理解し語りかけているか。

1 学期の発表では、原稿に目をやり、声が通らない生徒も多かったのだが、このレシテーションは、比較的短く、調子もいいので、視線を上げ堂々とした発表が目立った。何よりも発表前の休み時間に練習している姿も見られたことがそれを証明している。

#### 2.4.3 おわりに

本稿では、高校1年生の1学期・2学期に限定して、実践を述べてきた。2学期の発表活動で、視線をあげ声をまっすぐ出すという段階はクリアした。3学期は、自分の書いた文章であっても同様なプレゼンテーションができるよう指導したい。

#### 2.5 高校2年生 (58期) 担当：寺田恵一

高校2年生の実践—コミュニケーション活動の紹介

高校2年生の英語の授業時間は週に4時間である。そのうち1時間は鈴木が担当しコミュニケーション活動—スピーチとディベート—を指導している。残りの3時間は寺田が担当し、'Unicorn English Course II' とその関連教材を使用し英語の総合力を育成するように指導している。本稿では、高校2年生で指導したコミュニケーション活動を報告する。

##### 2.5.1 論争的なテーマで自分の意見を述べる。

授業では毎回教科書の本文の内容について数問英語で質問し答えさせるといった活動を行っているが、質問自体が教科書の内容を超えるものが少なく、もう少し内容のある意見を生徒達に発表させ交流させる活動を行わせたいと考え、次のような活動を行わせた。

'Unicorn English Course II' の Lesson 5 'A Tour of the Brain' の Challenge (p.84) の課題を応用して次のようなタスクを生徒達に出した。

A. 次の質問に対してあなたに立場をどちらかに取り、その理由を3つ書きなさい。

Which do you think better, co-ed high-schools, or single-sex high schools?

B. ペアを作り、互いに相手に対して上記の質問をして、相手の答えとその理由をメモする。メモした内容をクラスに報告する。

本校が男子校であるせいか、生徒達の多数は single-sex high schools に賛成していた。論拠としては次のようなものがあげられていた。

1. In single-sex high schools we can concentrate on what we have to do.
2. Friendship between the same sex is more important than that between the opposite sex.
3. There are many differences between men and women. So, if teachers deal with their students equally, it follows that they ignore such differences.
4. We can unite more easily at the sports day and the school festival at single-sex high schools.

これに対して、co-ed high schools に賛成した論拠としてつぎのようなものがあげられる。

1. In co-ed high schools we can learn in the environment which is quite similar to the society .
2. Students can learn the differences between boys and girls earlier than in single-sex high schools.
3. Generally, co-ed high school buildings are tidy and boys' high school buildings are not.
4. Students in single-sex high schools are likely to look down on the opposite sex because they don't know the opposite sex well.
5. In single-sex high-schools like ours, boys tend to have poor social skill with girls.

ペア活動では生徒達は予想していたよりも活発に意見を交換していた。自分の意見を表明する活動に充実感を感じた生徒が多かったようだ。

##### 2.5.2 教科書のレッスンからスピーチの活動へ

###### 2.5.2.1 アメリカ大統領などのスピーチ教材の活用

'Unicorn English Course II' の Lesson 6 'One Vote—The Life of Jeannette Rankin' は、9月11日の同時多発テロ事件の後、ブッシュ大統領に報復戦争のすべての権限を与える議会の決議に唯一反対票を投じたバ

ーバラ・リーと、アメリカが第一次・第二次世界大戦に参戦することにただ一人反対したジャネット・ランキンの2人の平和主義者を扱い、平和の問題をテーマにしている。テキストの冒頭にバーバラ・リーのスピーチの一部が紹介されている。筆者はこのレッスンを教えながら、関連教材として次のようなスピーチの教材を準備し生徒に聞かせた。

Bush, G.W. (2008) Address to the Nation on the Terrorist Attacks, September 11, 2001. 『歴史が創られた瞬間のアメリカ大統領の英語』pp. 182-183. 西川秀和著 ベレ出版

Clinton, W. J. (1994). Bill Clinton: Inaugural Address January 20, 1993. 『アメリカ大統領の英語就任演説第6巻ブッシュ・クリントン』pp.66-69. アルク

アルク編集部 (2006). 『BBC 20世紀クロニクル Vol.1』アルク

鶴田知佳子、柴田真一(2008). 『スピーチの達人に学べーリーダーの英語』コスモピア

上記の教材の中で、Bush 大統領の 'Address to the Nation on the Terrorist Attacks, September 11, 2001' は 2001 年の同時多発テロの夜に行われたスピーチである。Lesson 6 のセクション 1 に登場するバーバラ・リーは、テロ事件の3日後に議会で提案された決議にただ一人反対票を投じた議員である。

Bill Clinton 大統領の1993年の大統領就任演説にはその冒頭の部分に、アメリカ独立宣言に盛られた有名なアメリカの理想—life, liberty, the pursuit of happiness—が引用されている。Bush 大統領と演説のスタイルと内容が著しく異なる例として生徒に聞かせた。

『BBC 20世紀クロニクル』シリーズは、20世紀の100年を振り返るイギリス国営放送政策の歴史ビデオドキュメンタリー「BBC—A Day That Shook the World(世界を震撼させた日)」をCD付き書籍にしたものである。このシリーズの Vol. 1 には 'Pearl Harbor Attacked'(真珠湾攻撃, pp.86-90) というシーンが収められていて、BBC のビデオと同じ音声が入っている。Lesson 6 では真珠湾攻撃がレッスンの中心的な出来事になっているので、このCDは時代的な背景を学ぶ上でも有益な教材であった。

『スピーチの達人に学べーリーダーの英語』に、マーガレット・サッチャー首相の「就任演説」(pp.18-23)

が収められている。これは即興スピーチで比較的短いものだが、序論、本論、結論の3つの部分に分かれているオーソドックスなスピーチである。

## 2.5.2.2 スピーチの実践

2.5.2.1 で挙げた教材で様々なスピーチを聞かせながら、生徒たちに彼ら自身のスピーチを行わせるために次のような要綱を配布した。

### 高2 2学期実施スピーチの要綱

2008年10月8日

1. テーマ  
自由  
(例) 学校行事(文化祭、体育祭、音楽祭など)、社会問題、環境問題、旅行、趣味、特技、将来の夢、社会への提言等
2. スピーチの時間  
2分前後
3. Visual Aids  
写真、絵、実物などを活用すること
4. スピーチ実施日  
11月19日(水)、20日(木) (予備日: 11月26日(水))
5. スピーチの原稿の提出期限  
11月10日(月) (文化祭代休あけの最初の授業の日)  
\*提出した原稿は、11月17日(月)に返却する。
6. 評価のポイント  
(1) 聴衆に理解できる、わかりやすいスピーチ—出来るだけやさしい語を使用する。  
(2) 聴衆を見て話すこと—スピーチの内容はできるだけ覚えておくこと。  
(3) ゆっくりと大きめの声で話す。
7. その他  
(1) スピーチ終了後、清書した原稿を提出する。  
(2) スピーチはビデオで撮影する。  
(3) 聴衆はスピーカーの評価(相互評価)表にコメントを記入する。

生徒のスピーチは11月の下旬に行われた。次に、生徒の原稿の中から3編を原文通り紹介する。最初のスピーチは音楽部の生徒が、彼がふだん演奏している「トロンボーン」について書いたものである。この生徒は黒板にトロンボーン絵を描きながら説明して、

上記の要綱の「6. 評価のポイント」に記した「聴衆に理解できる、わかりやすいスピーチ」を行った。

Hello, everyone. Today, I'm going to tell you about the instrument I have played. It is the trombone.

I began to play the trombone when I entered the junior high school. From then on, I have continued to play the trombone. Now, I have improved my playing of it. And I love it.

I think that there are two reasons why I love it.

First is difficulty. Playing the trombone is hard but I love it all the more. When we are playing the trombone, we use lips and a slide to fix the notes.

There are no marks on a slide. So players have to learn the right positions to sound the right notes. It is difficult.

Trombones have no keys. Therefore, it is very difficult to play passages quickly. These handicaps lead me great pleasure.

Second is variety.

With the trombone, we can play the soft and quiet tone, we can play the hard and loud tone. With the trombone, we can play the heavy and powerful tone. We can play the sharp and cool harmony. The sound of trombones has many characters of tone. All of them are fascinating and they charm me.

I've told you why I love the trombone. I have quit the music club but I want to keep practicing because I love it. Thank you for listening.

彼のスピーチに触発されて、同じクラスの音楽部に所属する生徒が「サクソフォン」についてスピーチを行った。彼はプレーヤーを教室に持ち込み、'Over the Rainbow'という曲をトロンボーンとサクソフォンの演奏でそれぞれ聴かせた。二つの楽器の相違が実感できる素晴らしいスピーチであった。

Hello, everyone. Are you enjoying speeches? Today, I am going to tell you about what is different between saxophone and trombone.

First of all, saxophone is a woodwind instrument; on the other hand trombone is a brass instrument.

Let me show you more concrete examples. Look at these pictures. This, playing saxophone is Mr. O,

and this, playing trombone is Mr. K. As you see, saxophone is kind of a complicated instrument, but trombone is very simple.

And now look at these pictures. Can you see? This is the mouthpiece where we blow into. Sound is made by the vibration of the air, as you know.

Saxophone uses a sort of bamboo called "Reed", and we blow into the saxophone mouthpiece, this reed vibrates, and makes sounds. But trombone doesn't use things like that. When we blow into the trombone mouthpiece, the player's lip itself vibrates, and makes sounds. When we play the saxophone, you can easily "make sounds", but it is very difficult to make sounds clearly and beautifully.

The biggest difference is how to change the notes. As Mr. K has told you, trombones use slide to change the notes, and that is why trombone is very difficult to tune correctly, but not only that, it is also why trombone is very good at doing a technique called "Vibrato".

Saxophones use keys to change the notes. So it is much easier to change the notes than trombones, and it makes possible to play very fast and difficult phrases.

(Now let's listen to both instruments' sounds. "Over the Rainbow" from "The Wizard of Oz" by Harold Arlen.)

Today, I have talked about the differences between Saxophone and Trombone. Both are very good instruments, and if you have a chance, please try to play both instruments. Thank you!

最後に紹介する生徒のスピーチは「英語のリスニング能力を向上させる方法」について論じている。"The first method, the second method"などのフレーズを効果的に用い、構成が明確なスピーチであった。リスニングを向上させる4つの方法を提示しその長所と短所を挙げていた。

Hello, everyone.

Today, I'm going to tell you about how to improve your English listening ability. We have studied English for five years at least. In spite of that, our listening or talking ability is not good, not to say

bad. Why? We have few chances to listen or talk in English at school. We are not accustomed to listening. We should try to do something.

Now I'd like to suggest four methods to improve our listening ability.

The first method is movie. It is fun for us to see movies, isn't it? At least it's fun for me! I think this is the most interesting method. And we can listen to natural English conversation. On the other hand it also has disadvantage. In the movie, there are a lot of slangs. It isn't proper for learning English.

The second method is to take English conversation lesson, like "ジオス", or "Nova". We can talk with native speakers. Though this is a very practical method, it costs money. When we choose the lesson, we should be careful.

The third method is to study abroad. Needless to say, this is the most effective method. If you go abroad, you surround yourself with full of foreigners and have to listen to English. It also costs money. Much money. And if you cannot listen to English well, you may be at a loss. This is a high risk and high return method.

The final method is radio. I think this is the best way to listen to English. Radio has many English programs. English conversation programs, English news and so on. It's free and not takes long time.

I suggested four methods. When you try to learn English, you may use such methods. Please try!

Thank you.

以上三人の生徒のスピーチを紹介した。高2の生徒たちのスピーチは概して私の予想を超えるものであった。多くの生徒は、このようなクリエイティブな活動に多大のモチベーションを感じているようだった。リードアンドルックアップに課題を残す生徒が一部見られたが、全体として、今後のコミュニケーション活動の指導に示唆を与えてくれるような成果を今回得られたと思った。

## 2.6 高校3年生 (57期) 担当: 加藤裕司

高校3年生のSSH関連の授業の実践は、科学関連の映画を見せたこと、科学関連の教材を読ませたこと

である。

科学関連の映画として取り上げたのは、'An Inconvenient Truth'である。科学関連、特に、環境問題関連の語彙を増やすことができるだけでなく、ゴア氏のプレゼンテーションがすばらしく、非常に参考になる。将来的に英語で研究発表をしなくてはならない生徒のプレゼンテーション能力の育成には格好の教材であった。視聴にあたっては、ただ見せるのではなく、最初に聞き取るべき課題を与え、英語の字幕を見る形で行った。課題の例は以下のようなものである。

(例)・(大陸が移動したのではないかという質問に、あり得ないといった先生についての逸話の最後に) 聴衆が大笑いした理由は何か?

- ・CO<sub>2</sub>が1年に上下しながら漸増しているが、上下している理由は何か?
- ・Global Warmingにより洪水とともに、洪水とはparadoxicallyに陸地で起こることは何か?
- ・a canary in a coal mineとは何のことで、どういう意味で述べられているか?

科学の話題を扱った教材として読んだのは、以下のような話題のものである。

- (例)・Virtual School
- ・DNA
  - ・Newton's Experiment with Prisms
  - ・Stress
  - ・DNA Testing
  - ・Evolutionary Psychology (Robert Wright)
  - ・The Process of Writing

これらの話題のうち、'DNA Testing'について述べられたものの一部は以下の通りである。

By the time DNA testing finally brought confirmation, or something close to it, a few months ago, most scientists had already come around to the view that Neanderthal people, though humanlike, were not direct ancestors of modern human beings but instead represented a side branch and an evolutionary dead end.

Still, the genetic investigation was remarkable. Scientists first extracted a pure sequence of DNA from the original Neanderthal skeleton discovered in Germany in 1856. They then compared that sequence with corresponding sequences in Homo sapiens. Because genetic alterations build up naturally within any species over time, at a rate

that can be estimated, comparing parallel DNA sequences yields an instant photograph of genetic closeness or distance. The comparison also allows an estimate of the date when related species began to separate. In the case of the Neanderthals and us, according to DNA tests we began to separate 600,000 years ago. Little or no breeding appears to have occurred between them.

Fascinating as genetic analysis can be, I must confess to increasingly frequent episodes of what might be called DNA fatigue: Deoxyribonucleic acid (DNA) enjoys the status of judge and jury, architect and master builder. It admits no argument. "Evidence from archaeology is seldom clear-cut," an editorial writer observed in the journal *New Scientist* after the Neanderthal findings were published, "whereas DNA research seems to provide reliable answers." Medieval thinkers said they felt wonder at seeing the hand of God apparent in all things: in a blade of grass, the fragility of a butterfly wing, the breath of a fly. The sin these mystics had to fight, commentators say, was weariness at always being reminded.

### 3 まとめ

本校英語科教員による実践報告は以上である。各教員が共通のガイドラインとして、中学1・2年では科学的内容より、まず人前できちんとしたスピーチをするという練習を行い、それ以降の学年でそれに科学的内容を織り込んでいくようにする、という認識を持ち、それを個々のスタイルで実践していることがわかっていただけと思う。

ただ、中学レベルでの科学的教材の開発はまだ、十分具体化しているとはいえない。とはいえ中学1年生は2学期で過去形までの学習を終える予定であり、簡単な未来形(助動詞 will)の導入を行えば、ある程度の科学的な文章を読んだり、簡単な意見を述べたりすることは可能であると考えられる。具体的な活動内容は各教員の裁量に任されるが、今後は中学低学年においても、その学年に応じた科学的な内容の英語を扱うようにしていきたいと考える。

#### <参考文献>

- アルク編集部 (2006). 『BBC 20世紀クロニクル Vol.1』アルク
- Bush, G.W. (2008) Address to the Nation on the Terrorist Attacks, September 11, 2001. 『歴史が創られた瞬間のアメリカ大統領の英語』pp. 182-183. 西川秀和著 ベレ出版
- Clinton, W. J. (1994). Bill Clinton: Inaugural Address January 20, 1993. 『アメリカ大統領の英語就任演説第6巻ブッシュ・クリントン』pp.66-69. アルク
- 本名信行、竹下裕子 (2007). 『スピーチ・プレゼン・ディベートに使える英語表現集』ナツメ社
- 久保野雅史他(2006)「数学・理科に関する口頭発表能力の養成(3)」『筑波大学附属駒場論集第45集』
- 鶴田知佳子、柴田真一(2008). 『スピーチの達人に学べーリーダーの英語』コスモピア

## Dining cars in Japan 1-1-5

Hello, class. Today I'll talk about dining cars in Japan.

In Mr. Hachimiya's classes, we learned about "Railroad man" who had worked as a bartender in dining cars in America. How about the dining cars in Japan? Are there many dining cars in Japanese railroad? Isn't there any problem?

As you know, night trains have been diminished for about recent 20 years. As people travel by Shinkansen, airplanes or cars, night trains have been diminished. And now, only some luxury night trains remain. With the diminishment, dining cars were also diminished. Now, there are only three trains which connect the dining cars. Their names are Hokutosei, Cassiopeia and Twilight Express. They are all luxury trains and their destination is Sapporo. I'll talk about the Cassiopeia's dining car.

This is Cassiopeia (show picture). Cassiopeia travels between Ueno and Sapporo. At 15:35, it enters the platform in Ueno. When the doors open, workers put foods into the train quickly. After the departure, cooks begin to cook for the diner. Actually, there are only two cooks in the train. So they cook so busily.

At 17:15, the first dinner starts. Waiters serve Japanese traditional foods. Its price is ¥5500. After that, the second and third dinners start. These are French full-course meals. Its price is ¥7800. These are expensive, but every day there are full of reservations for the dinners. During the dinner, cooks are cooking meals and also washing dishes. Waiters are serving to their passengers, and bringing many dishes.

After the three times dinner, "pub time" starts. At this time, we can enjoy dinner and snack cheaply. People enjoy eating stew, hamburger steak, beer, and so on.

At 23:00, the dining car closes. Waiters clear things up, then they go to bed for a while. The train is just arriving at Morioka.

About 40 years ago, there were many dining cars in Japanese trains. Many special express trains connected dining cars, and many passengers could eat meals more cheaply. Now, eating dinner in dining car is a luxury event. I wish I could eat in the dining car some day.

Thank you for listening.

## 高1スピーチ原稿2 : Summary of Beowulf

Today, I would like to talk about Chapter 7 to 10 of BEOWULF.

After Beowulf defeated Grendel's mother, he and his men prepared to go back to Geats. The Dane king Hrothgar gave him a great number of gifts, such as treasure and weapons, so on to express his gratitude and the friendship to Geats. The king saw that Beowulf was a brave man with a strong heart and eyes.

Then they arrived at their home and Beowulf went to meet King Hygelac who was the king of Geats. He told him how he had defeated Grendel and the monster's mother. And Beowulf showed him the treasure that he had received from Hrothgar and presented them to Hygelac and Queen Wealhtheow. The reputation among the Geats was very high. The King rewarded him generously.

The years passed, and the war broke out between Geats and their enemies, the Danes, in battle, and Beowulf became a king. He ruled for fifty years.

Then a new danger befell Geats. A dragon who guarded a noble family's treasure ground woke up by a foolish thief and attacked the people on the land for his crime. On this news and decided to take his revenge against the dragon. He was not alone. Eleven men went to the dragon's barrow.

Beowulf began to fight the dragon. Beowulf and his man Wiglaf managed to kill the dragon, but were injured in battle. Wiglaf did everything he could but Beowulf's wound was too deep and he was dying. Beowulf asked Wiglaf to build the Beowulf's barrow and he gave Wiglaf these words: 'You are the last of us.' Then Beowulf was dead.

Geats wept for Beowulf and built a large barrow. They said that Beowulf had saved the whole world. The story of Beowulf ended.

This story was a magnificent fantasy. I think this may be the model for modern times.

参考資料2 独立宣言・暗誦文の抜粋とその練習プリント

高1英語 2学期 25-2

11/21/08

Thomas Jefferson (3)

\*An excerpt (抜粋) of the Declaration of Independence

Let's learn by heart!

We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal,  
that they are endowed by their Creator with certain unalienable Rights,  
that among these are Life, Liberty and the pursuit of Happiness.

Step1 Read and look up!

We hold these truths to be self-evident,  
that all men are created equal,  
that they are endowed by their Creator  
with certain unalienable Rights,  
that among these are Life, Liberty and the pursuit of Happiness.

Step2

We hold these truths ...  
that all men are ...  
that they are endowed ...  
with certain un...,  
that among these are ...

Step3

We ho...  
that all ...  
that they ...  
with cer...,  
that am ...

Step4 Shadowing

中1英語 スピーチ原稿

Class 1-( A ) Number( 25 ) Name(



Title( Rice Harvest )

~~At~~ <sup>In</sup> TUKUKOMA, the students grow rice in Keruneru rice field every year.

This year, we did.

In June, I planted rice for the first time.

In August, I did the weeding. It was tired. But we ate ~~the~~ some watermelons after work. <sup>They were</sup> ~~It was~~ delicious.

Growing rice is difficult.

So harvesting rice was happy.

I'm looking forward to Mochituki.

Growing rice is ~~is~~ tradition of TUKUKOMA.  
one of the

I have a dream. One day.

Our sons will grow rice in Keruneru rice field. My dream.

参考資料 3

中1英語 スピーチ原稿

Class 1-( B ) Number( 35 ) Name(



Title( School Festival )  
We had on



The school festival opened November  
first, second, and third. Our class made  
dioramas. We separated into some groups.

My group made a diorama of Shinjuku station.

It was hard. We bought foam polystyrene, cut  
it, stuck <sup>them together</sup> it, and painted it. And we made

<sup>some</sup> buildings of miniature by pasteboard. Then,  
we <sup>put</sup> pasted buildings on the foam polystyrene.

We managed to complete <sup>our work</sup> them. We had a concert.

I played the flute in our brass band and  
performed juggling in our juggling club  
too. I practiced very hard. I was in the decoration  
committee of a dormment. I was very busy.

But, I enjoyed the school festival.

Thank you.